月刊誌『統計』のルーツのはなし

『統計』は、公的統計、統計研究、統計教育に関する統計の総合誌です。毎号、タイムリーな話題を「特集」テーマとして取り上げ、各分野の専門家が統計の視点から解説・考察した論文・論考を掲載しています。また、統計学及び統計をかみくだいて解説したコーナーや連載も設けています。

『統計』は、どのような歴史的な変遷を経て今日の姿になったのでしょうか。ここでは、そのルーツをたどってみることにします。

『統計』の前身には、二つの統計雑誌があります。その一つは、明治13年（1880年）に「統計協会」(1) が創刊した『統計集誌』です。当時は、国の発行する統計報告書が乏しく、統計に関心の高い会員で構成される団体が、主として会員向けに統計資料集を発行したものでした。

もう一つの前身は、明治19年（1986年）に「スタチスチック社」(2) が創刊した『スタチスチック雑誌』です。これは、統計学の普及を目的とした学術誌の性格を有するものでした。明治25年（1892年）、同誌は『統計学雑誌』とタイトルを変え、刊行が続けられました。

その後、昭和19年（1944年）、戦時下の統制により、二つの発行主体が「大日本統計協會」として統合されたのに伴い、二つの雑誌も統合され、『大日本統計協會雑誌』となりました。

終戦後の昭和22年（1947年）、タイトルが『統計』に改められました。当初は不定期で刊行されていましたが、昭和25年（1950年）から月刊となり、今日に至っています。

『統計』は、長い歴史の中で姿を変えながら刊行されてきましたが、一貫して統計データと統計学に焦点を当てた論文や資料を掲載し、統計及び統計学の発展に努めてきました。現在の『統計』は、このような精神を引き継ぎ、一流の執筆者のご協力のもとに発行されています。

『統計』の表紙の変遷(3)

明治13年(1880)創刊

統計協会発行

明治19年(1886)創刊

スタチスチック社発行

明治25年(1892)改題

統計学社発行

昭和19年(1944)統合

大日本統計協会発行

昭和22年(1947)改題

財団法人
日本統計協会発行

『統計』の最近号

一般財団法人
日本統計協会発行

(1) 現在の一般財団法人日本統計協会の前身の組織の一つ。明治11年(1878年)に設立された「製表社」が名称変更によりこの団体となった。
(2) 現在の一般財団法人日本統計協会の前身の組織の一つ。明治９年(1876年)に設立された。「表記学社」が名称変更により、この団体となった。その後、「統計学社」に変更された。
(3) 鮮明な画像を選んで掲載したため、必ずしも最も古い号の表紙とはなっていない。